



研修レポート

# 『真壁伝承館』がオープン ～桜川市～

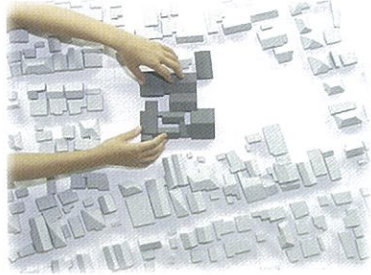
桜川市教育委員会 生涯学習課／副主査 飛毛 俊浩

## ■事業計画のあらすじ

真壁伝承館は、昭和40年代、各々に建てられた公共施設(公民館・歴史民俗資料館・健康母子センター・真壁中央公園)が老朽化したのをきっかけに、これらを再構成し、合理的に利用するための事業計画が進み、平成23年7月に竣工しました。そこにはこの土地ならではの歴史的要素やいくつかの条件を満たすために必要な大幅な計画変更とそれによる新たな展開、更なる価値観を生み出すことが出来ました。

## ■公募型プロポーザルによる設計者選定と公開市民ワークショップ

平成19年10月、110社の参加表明をいただいた中から設計組織ADHを選定した大きな理由として、建築物を提案するのではなく「サンプリング」と「アセンブリー」という設計手法の発案にありました。市民ワークショップによる建物が使用者にとってより便利にかつ機能的になるよう敷地内配置計画を地域と共に組み立てていくという考え方です。実際に市民ワークショップでは予め用意しておいた周辺の特徴ある伝統的建物の模型サンプル(サンプリング)を計画敷地の中に並べてもらう(アSEMBル)ことを行いました。そして施設の中身(規模や使用用途)を具体的に議論し、発表してもらいました。このデータを基にして設計構想を意匠化していき、その結果として当初案から骨格となる最終的な建物の形状になるまでには約半年間にわたり検討し、13回ものプラン変更案がつけられ、合意に至りました。

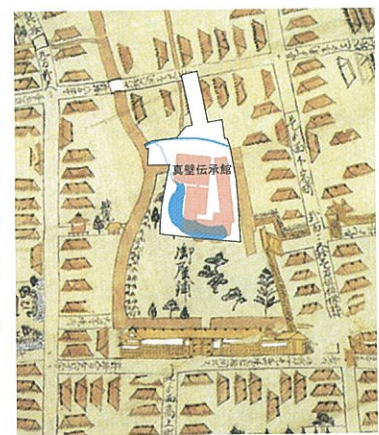


## ■重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)と計画敷地内の発掘による「真壁陣屋跡遺構表示」

桜川市真壁地区は戦国時代に真壁氏によりつくられた城下町が起源となって以来、400年変わらない町割り(通りや街区の形)に江戸から明治、近代に至るまでの様々な伝統的建造物が数多く残されていることが特徴として、平成22年6月に重伝建地区の国選定を受けることが出来ました。この出来事は、もともと古い町並みを最重要視した景観になじむ建築を目指していた伝承館にとってこの地区の核(ガイドライン)になるための施設建設目的に大きな役割が課せられた要因となりました。



また、この土地は江戸時代に笠間藩陣屋跡の一部であることがあらかじめ判明していましたが、基本設計の段階ではまだその全貌を確認することは出来ていませんでした。市では設計と並行しての敷地内全面発掘調査を約半年間、実施しました。この発掘の成果次第では大幅な敷地配置計画の変更を余儀なくされることも承知の上でありましたが、その調査結果は敷地内の計画を覆すことなくむしろこの発掘成果が外構だけでなく建物内部への新たな施設の付加価値として活かすことが出来るようなものとなりました。これにより失われる過去の記録(歴史)をこれからの未来へ繋いでいくという大きな役割も担うことが出来るようになりました。



## ■ 真壁伝承館建築の特徴

[新しい技術への取り組みとデザイン]

真壁伝承館は“鋼板パネル付鉄骨ラーメン造”という鉄板のパネルを溶接してつなぎ合わせていくという工法で造られた建物です。この技法は小規模建築例が多く、平面的に分棟形式での事例は全国でも類がなく、溶接継ぎ目の平滑処理というデザインの問題やパネルの工場加工精度、施工精度の確保や結露対策、熱橋問題など技術的に解決



しなければならぬ問題が多くありましたが、鋼板パネル構造を採用することで、開口部の取り方に大きな自由度があたえられました。この施設の開口部は大小の正方形の窓が「ばらまかれた」ように見える配置に特徴がありますが、それは室内から外部のさまざまな都市景観要素に向けて開かれたまなざしの表現でもあります。

開口部の配置については模型を用いて、大人だけでなく子供や高齢者の視点を多く想定してデザインされました。ランダムようですが、最低限の配置規則も持っております。



[地域資源の活用とその存在価値について]

桜川市は北～南まで三方を山々に囲まれた平野部の中央に桜川が流れ、市の南北軸を形成し、古くからみがけ石の産地として知られております。



地産の真壁石を用いている

伝承館では、この石の産地ならではの使用方法を模索し、そこで目を付けたのは採掘場で切り出された原石を墓石や石灯笼としての製品材料に使えない、

いわゆる規格外品(柄物)の商品価値を見出すことを考えました。そこで、ある一定の規格はあるものの、原石そのままの形状を建物の中庭や公園に貼り付けることで立体的な空間の広がり動き、そしてその圧倒的な石の存在価値が生まれることとなりました。



また、桜川市の由来である、象徴的な河川・桜川上流で採取された桜川砂の洗い出しと砂利を敷いたみかげ石の目地コンクリートや犬走りへ利用を行いました。さらに、外部の杉板透かし張りの材料は茨城県産材の間伐木を編成材という形で加工、準不燃材処理と塗装をして使用し、日よけ効果だけでなく町並み景観との調和を図りました。

## ■ 名称決定とこれからの取り組み

「真壁伝承館」という名称は1,000件の一般公募案の中から選定された名称であります。この建物は町並み景観への調和に留まらず新たな未来への建築技法を試みたことにより、ここに述べた様々な出来事と併せて過去を踏襲し、そしてこれからの伝統文化や芸術また地域活動のために人々が集い新しい何かを創り上げるための舞台として市民はもとより訪れる多くの方々にいつまでも愛される公共施設として将来へと受け継いでいけるようになって欲しいと考えております。

### 【施設概要】

建築面積:1,728.84㎡/延床面積:2,742.64㎡

[本館]各会議室/和室/調理室/音楽スタジオ

[まかべホール]最大収容300人(可動式椅子)

[歴史資料館]常設展示室1・2/企画展示室

[真壁図書館]開架20,000冊/児童図書室/学習室

[真壁中央公園]1,390㎡(遺構表示)

[駐車場]65台

